

12 大井川南地域まちづくり構想

12-1 地域の現状

■概況

本地域は、焼津市の南部に位置し、面積は約 1,119ha で市域の約 16%を占めています。本地域は、大井川東地域及び大井川西地域とともに、昭和 30 年に大井川町として発足し、平成 20 年に焼津市に編入され、現在に至っています。

地域内には大井川港があるほか、国道 150 号バイパスとなる（都）志太東幹線の整備が進められています。今後は、これらインフラを活用した地域振興が期待されています。

大井川南地域 位置図



■人口の推移

平成 27 年における本地域の人口は 9,002 人、世帯数は 3,226 世帯となっており、近年、人口は減少傾向に、世帯数は横ばい傾向にあります。

年齢 3 区分別人口割合は、15 歳未満及び 15 歳～65 歳未満が減少傾向に、65 歳以上が増加傾向にあり、少子高齢化の傾向が年々強まっています。平成 27 年における 65 歳以上人口の割合は 26.0%で、市全体に比べて、高齢化率はやや低い地域となっています。

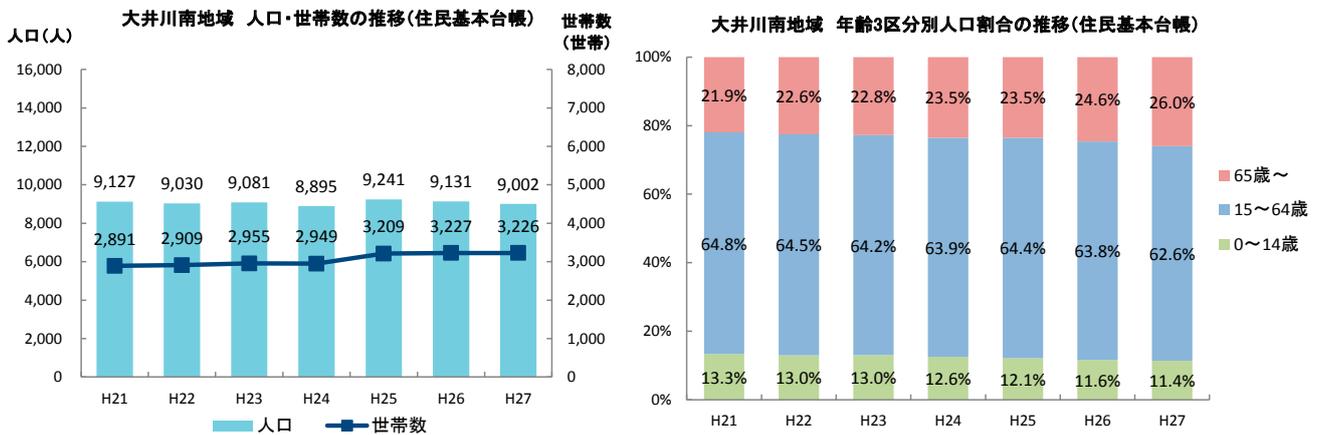


図. 大井川南地域における人口・世帯数及び年齢 3 区分別人口割合の推移
(住民基本台帳より：H24 までは日本人のみ、H25 以降は外国人を含む)

12-2 地域の将来像

大井川南地域の将来像

- 多彩な地域資源を活かした、にぎわいのあるまち
- 豊かな自然環境と共生した、誰もが安全・安心に暮らせるまち
- 津波などの自然災害に備えたまち

12-3 地域のまちづくりの課題

◎大井川港を活かしたにぎわいづくりと、良好な生活環境づくり

- ・大井川港の物流・生産機能等を維持するとともに、(都)志太東幹線の整備に併せた、市民や観光客等が交流する大井川港周辺のにぎわいづくりを進める必要があります。
- ・多くの公共施設が集積して立地し、地域住民の生活を支えている大井川生活交流拠点の現在の機能を維持するとともに、交通結節点としての機能の向上と公共交通などによる移動手段の充実を図る必要があります。
- ・既存集落地などにおいては、周辺の緑豊かな自然環境や田園風景と調和した住環境を保全・創出するとともに、地域コミュニティの維持と地域の活性化が必要です。
- ・東名高速道路大井川焼津藤枝スマートICに近接する立地優位性を活かし、既存集落地や自然環境と調和・共生した、地域の活力を高める新たなまちづくりを検討する必要があります。

◎自然や歴史・文化などの多様な地域資源の保全と活用

- ・大井川、志太田中川、泉川等においては、地域住民の憩いの場や水とのふれあいの場とするため、今後も保全を図るとともに、緑のネットワークづくりなどにより、さらに魅力を高める必要があります。
- ・駿河海岸から駿河湾や富士山を一望できる美しい景観は、地域のみならず焼津市の貴重な緑の資源となっていることから、地域住民や観光客が憩い、安らぐ場として保全・活用することが必要です。
- ・地域の自然や歴史・文化を守るため、地域住民が主体となった取組が必要です。

◎地域の活力向上と、地震・津波などの自然災害への備えの充実

- ・地域活動の中心地である大井川南小学校などを有効活用したまちづくりを進める必要があります。
- ・地震による津波被害の防止・軽減を図るため、大井川港や駿河海岸における津波対策を進めるとともに、避難地や避難路の整備などによる安全確保を図る必要があります。
- ・災害時に、地域の避難地及び復旧・復興の拠点として機能するとともに、平時も気軽に地域住民が利用できる(仮称)大井川防災広場の整備を進める必要があります。
- ・大雨時の河川氾濫・道路冠水等を防止するため、志太田中川や泉川などの地域を流れる河川とその流域について、総合的な治水対策を進める必要があります。
- ・過去の自然災害の発生状況や教訓をもとに、自然災害に対する危険性や正しい知識を習得するなど、地域住民の防災意識の向上と防災活動の充実を図る必要があります。

12-4 地域のまちづくり方針

①大井川港や生活交流拠点周辺を核にした、多様な交流とにぎわいを創出するまちづくり

- ・大井川港周辺の効率的な土地利用の維持を図るとともに、地域の特性を活かした特産品などをPRすることで交流人口の拡大を図り、市民と観光客が一緒になって楽しめる魅力あるまちづくりを進めます。
- ・生活交流拠点である大井川庁舎周辺においては、公共交通の結節点に位置するメリットを活かしつつ、安心して子どもを産み育てられ、高齢者が地域において安全・安心・快適な生活を営むことができる環境づくりに努めます。また、地域住民の日常の足の確保と利便性向上のため、利用需要に応じた公共交通ネットワークを検討します。
- ・市街化調整区域において、周辺の住環境や自然環境との調和・共生に留意するとともに、東名高速道路大井川焼津藤枝スマートIC周辺から延びる幹線道路周辺では、交通利便性を最大限に活かしつつ、雇用創出などの経済効果を生み、地域の活力を高める新たな土地利用について検討します。また、高新田第1・2工業団地など、既に都市的土地利用がなされ点在している環境共生型工業地（P19 参照）では、今後も生産機能の強化を図ります。
- ・広域の都市圏及び隣接都市との円滑な移動を可能にするため、（都）志太東幹線を計画的に整備するとともに、特別工業地区に指定されている大井川港周辺の沿線では、主要幹線道路沿いにふさわしい建築物の立地誘導を図ります。



大井川港

②大井川など自然資源と海辺空間の景観資源を活かした景観まちづくり

- ・地域ならではの自然資源などを活かした、ウォーキングイベントなどの健康づくりイベントなど、市民が楽しめる参加型イベントを充実することにより、観光客も一緒になって楽しめる魅力あるまちづくりを進めます。
- ・駿河湾、大井川、志太田中川、泉川など地域ならではの自然資源を結ぶ、豊かな水と緑を市民が身近に感じることができるまちづくりを進めるとともに、地域ならではの多様な動植物の生息環境に配慮した、衛生的で安全な生活環境づくりを進めます。



志太田中川

- ・ 環境の保全と衛生的で快適な生活基盤の充実を図るため、ボランティアなどの地域住民が主体となった環境美化活動を推進します。
- ・ 駿河湾や富士山を望む海辺景観や、吉永八幡宮などの地域ならではの歴史文化資源を保全し、活かすための地域独自の景観まちづくりを推進します。

③大井川南小学校などを活用した地域住民主体の活力あるまちづくりと、 (仮称)大井川防災広場などを活用した防災・減災まちづくり

- ・ 大井川南小学校など、地域活動の中心地にある既存施設を有効活用して、地域特性を活かした、地域住民主体の活力あるまちづくりを進めます。また、(仮称)大井川防災広場においては、平時は子どもから高齢者まで誰もが利用できる広場として、また災害時には避難地及び復旧・復興の拠点として機能を確保します。



大井川南小学校

- ・ 地震による津波被害を防ぐため、駿河海岸において粘り強い防潮堤と併せて、盛り土部に植林し、散策路を設ける「潮風グリーンウォーク」の整備を推進するとともに、大井川港周辺の住民や事業者を津波被害から守り、災害時における支援物資受入拠点としての機能を確保するため、大井川港の地震津波防災対策施設の整備を推進します。
- ・ 台風や集中豪雨などに起因する水害の防止・軽減を図るため、志太田中川や泉川などでは、河川の特性を踏まえた整備と維持管理を進めるとともに、総合的な治水対策を推進します。
- ・ 地域の子どもから高齢者まで誰もが、普及・啓発活動や防災教育等を通じて、防災意識を高揚させるとともに、災害ボランティア活動への参画を促進し、地域における防災活動を積極的に支援します。

